

# 岡山県感染症週報 2013 年 第 48 週 (11 月 25 日～12 月 1 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

## ◆2013 年 第 48 週 (11/25～12/1) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第 46 週	5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症 2 名 (幼児 女 1 名、80 代 女 1 名) 風しん 1 名 (20 代 男)
第 47 週	2 類感染症	結核 3 名 (60 代 女 1 名、70 代 女 1 名、80 代 女 1 名)
	5 類感染症	後天性免疫不全症候群 1 名 (20 代 男) 侵襲性肺炎球菌感染症 2 名 (50 代 女 1 名、80 代 女 1 名)
第 48 週	2 類感染症	結核 2 名 (小学生 女 1 名、80 代 男 1 名)
	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O157: 幼児 女 1 名、O146: 60 代 女 1 名)
	5 類感染症	後天性免疫不全症候群 1 名 (20 代 男) 侵襲性肺炎球菌感染症 1 名 (60 代 女)

### ■定点把握感染症発生状況

- 感染性胃腸炎は、県全体で 647 名 (定点あたり 8.07 → 11.98 人)の報告があり、前週より大きく増加しました。
- RS ウイルス感染症は、県全体で 64 名 (定点あたり 1.30 → 1.19 人)の報告があり、前週より減少しました。
- インフルエンザは、県全体で 41 名 (定点あたり 0.37 → 0.49 人)の報告があり、前週より増加しました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 71 名 (定点あたり 0.78 → 1.31 人)の報告があり、前週より大きく増加しました。

## 【第 49 週 速報】

- 倉敷市の小学校 1 校で、インフルエンザとみられる学級閉鎖がありました (12 月 3 日)。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 48 週に 2 名の発生報告がありました。岡山県のこれまでの報告累計は 82 名となり、第 39 週から 10 週連続の発生となっています。11 月の発生件数は、県の過去 5 年平均で 2.0 件ですが、今年の 11 月の発生件数は 9 件となり、例年に比べて多く報告されています。県では、7 月 10 日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っています。手洗い等を徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、ひきつづき感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)」をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で 647 名 (定点あたり 8.07 → 11.98 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。第 43 週以降連続で増加しています。今週から週報及びホームページに「感染性胃腸炎情報」の掲載を開始いたします。県内の発生状況など詳しくはそちらをご覧ください。
3. **RS ウイルス感染症**は、県全体で 64 名 (定点あたり 1.30 → 1.19 人) の報告があり、前週より減少しましたが、過去 10 年の同時期で最も定点あたり報告数が多くなっています。地域別では、美作地域 (3.67 人)、岡山市 (1.79 人)、倉敷市及び真庭地域 (1.00 人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、美作地域で大きく増加しました。第 48 週までの年齢別累計では、6 ヶ月未満 20%、6-12 ヶ月 25%、1 歳 34%と、1 歳以下の乳児が 79%を占めています。この感染症は、秋から冬にかけて多くの患者が報告されており、今後再び患者数が増加する恐れがあります。全国の第 47 週の発生状況を見ると、定点あたり 1.30 人の報告があり、岡山県と同様に過去 10 年の同時期で最も多くなっています。ひきつづき手洗い、うがい、マスクの着用等、感染予防に努め、お子さんの体調が悪いときは、早めに医療機関を受診してください。
4. **インフルエンザ**は、県全体で 41 名 (定点あたり 0.37 → 0.49 人) の報告があり、前週より増加しました。備北地域では、19 人 (定点あたり 3.17 人) の報告があり、インフルエンザ流行開始の目安となる「定点あたり 1.00 人」を超えました。県全体としても、第 45 週以降増加が続いていますので、手洗い・うがいなど、自分でできる感染予防に努めましょう。定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。ワクチンの在庫及び予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。県内の詳しい発生状況などは、[「インフルエンザ情報」](#)をご覧ください。

5. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で71名（定点あたり0.78→1.31人）の報告があり、前週より大きく増加しました。地域別では、岡山市（1.64→2.86人）、美作地域（1.00→2.67人）、倉敷市（0.82→1.18人）の順で定点あたり報告数が多く、岡山市と美作地域では、前週から大きく増加しています。第48週までの年齢別累計では、4-5歳28%、6-7歳25%、2-3歳14%の順で多く、中学生までの年齢で多く報告されています。この感染症は細菌による上気道炎で、春から初夏及び冬に患者が増加します。突然の発熱と体のだるさ、のどの痛みによって発症し、吐き気を伴うことや、口の中に小点状出血や莓舌がみられることもあります。肺炎や髄膜炎、敗血症など、さまざまな合併症を起こすことがあり、注意が必要です。学校などでは集団感染することもありますので、患者との濃厚接触を避け、手洗い、うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
6. **風しん**は、第46週に1名の報告があり、第40週以降6週ぶりの発生となりました。岡山県のこれまでの報告累計は75名となっています。患者は、全国集計同様20~30代の男性が中心であり、予防接種歴は、接種歴なしが23名、接種不明が48名、1回のみ接種が4名でした。

### 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★★★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		—			

【記号の説明】 前週からの推移: : 2倍以上の減少    : 1.1~2倍未満の減少    : 1.1未満の増減

: 1.1~2倍未満の増加    : 2倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし    ★: 僅か    ★★: 少し    ★★★: やや多い    ★★★★: 多い    ★★★★★: 非常に多い  
 ※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成25年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

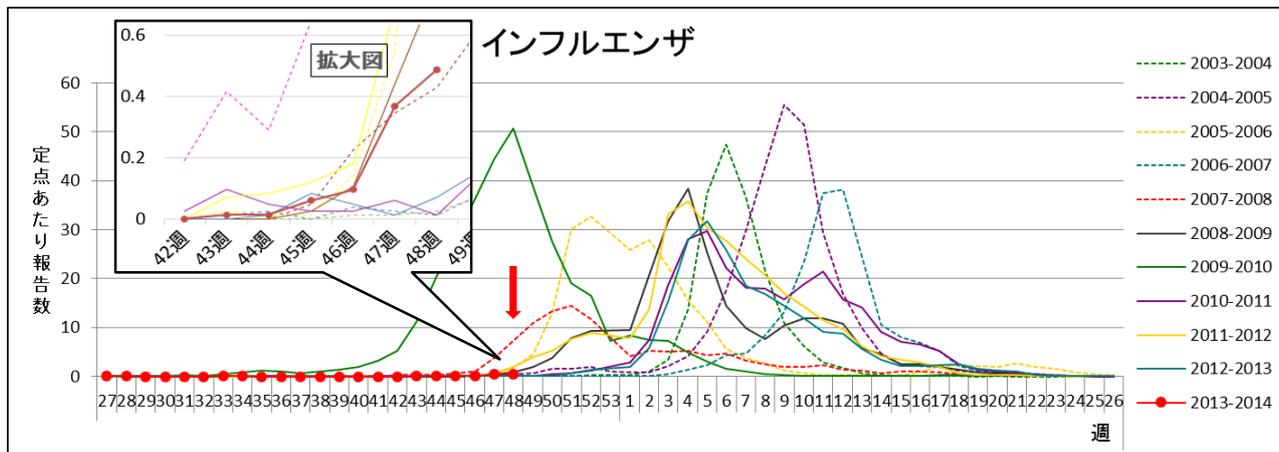
## インフルエンザ情報 2013 年 第 48 週 (11 月 25 日 ~ 12 月 1 日)

### 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 41 名（定点あたり 0.37 → 0.49 人）の発生がありました（84 定点医療機関報告）。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業の報告はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

### 【第 49 週 速報】

- 倉敷市の小学校 1 校で、インフルエンザとみられる学級閉鎖がありました（12 月 3 日）。

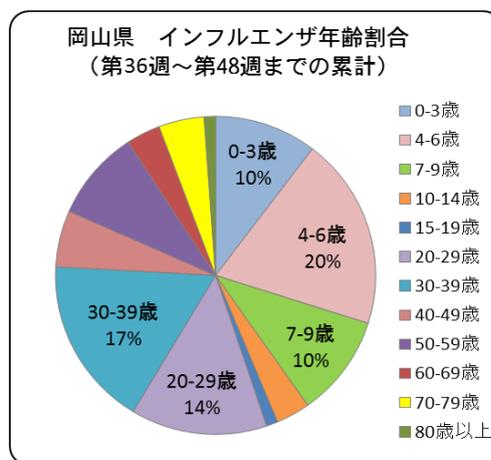
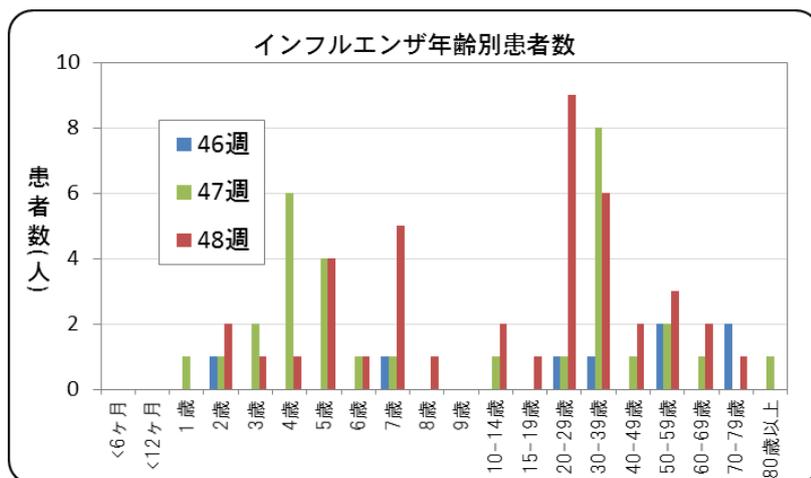


※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 41 名（定点あたり 0.37 → 0.49 人）の発生があり、第 45 週から増加が続いています。県全体としての報告数はインフルエンザ流行開始の目安となる「定点あたり 1.0 人」を超えていないものの、報告数が大きく増加した備北地域では定点あたり 3.17 人となり、地域的な流行が見られています。

12 月に入りインフルエンザは流行のシーズンを迎えています。第 49 週には、倉敷市の小学校で学級閉鎖も発生していますので、手洗い・うがいを励行し、感染予防を心がけましょう。幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうととしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。

### 1. 年齢別発生状況



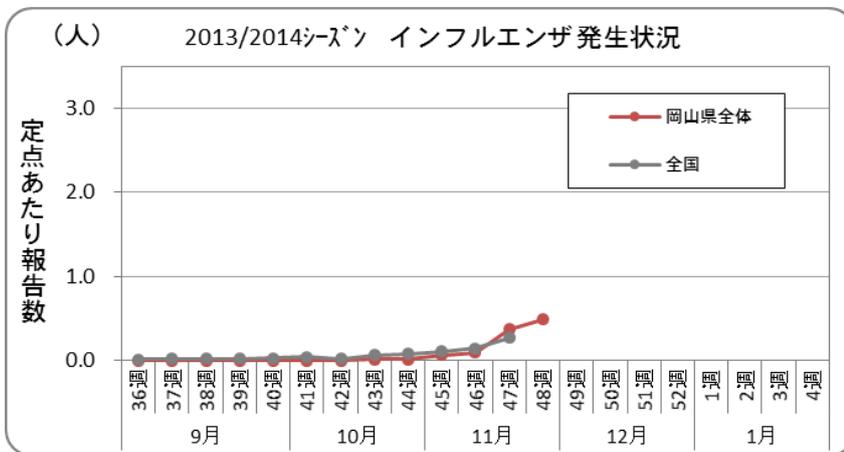
2013 年第 36～48 週までの年齢別累計割合は、4-6 歳 20%、30 代 17%、20 代 17% の順で多くなっており、9 歳以下の乳幼児が 40% を占めています。また、20 代～30 代の年齢層でも 31% と多くの患者が報告されていますので、職場等での感染予防や拡大防止に努めましょう。

## 2. 地域別発生状況

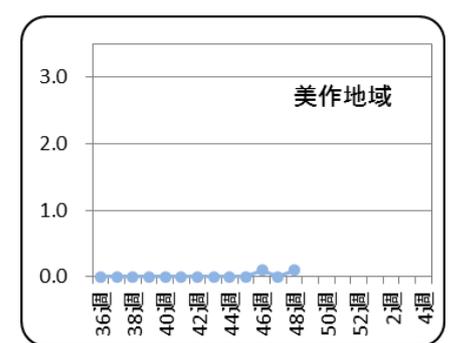
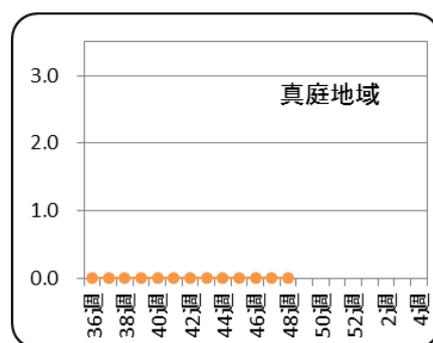
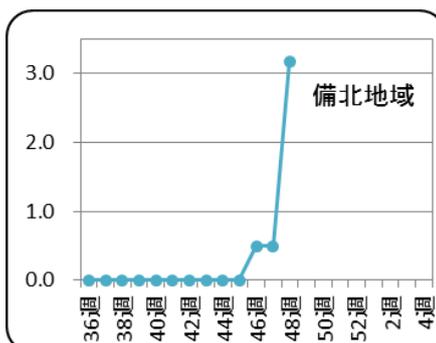
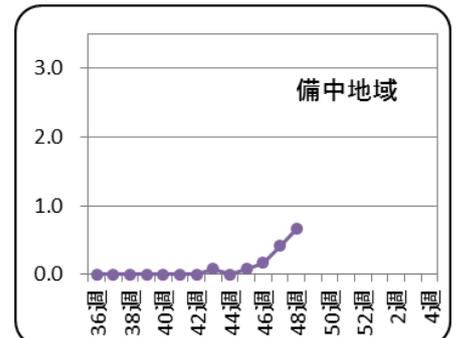
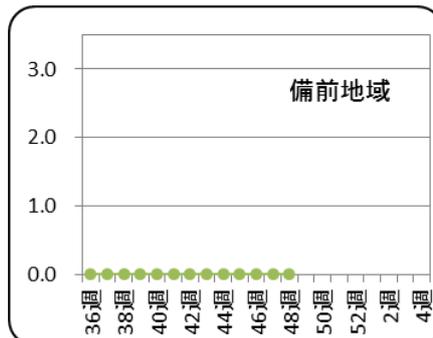
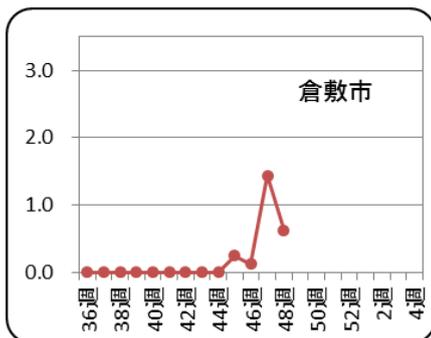
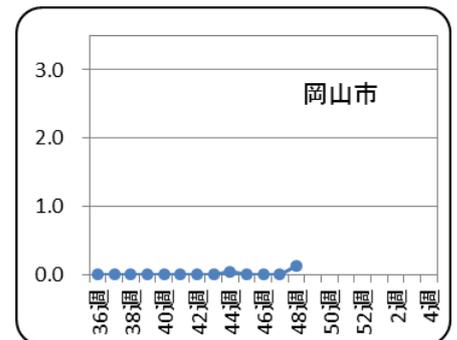
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	41	▲	備 中	患者数	8	▲
	定点あたり	0.49			定点あたり	0.67	
岡山市	患者数	3	▲	備 北	患者数	19	▲
	定点あたり	0.14			定点あたり	3.17	
倉敷市	患者数	10	▼	真 庭	患者数	—	▶
	定点あたり	0.63			定点あたり	—	
備 前	患者数	—	▶	美 作	患者数	1	▲
	定点あたり	—			定点あたり	0.10	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ▼ 1.1～2倍未満の減少 ▼ 1.1未満の増減 ▶  
1.1～2倍未満の増加 ▲ 2倍以上の増加 ▲



全国集計第47週(11/18～11/24)速報値によると、全国では定点あたり0.27人であり、増加が続いています。地域別では、北海道(1.29人)、沖縄県(0.95人)、佐賀県(0.82人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、35都道府県で前週よりも増加しました。



### 3. インフルエンザウイルス検出状況

第48週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンでこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が7株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が53株、AH1pdm09型が21株、B型が24株で、昨シーズンの同時期同様AH3型が最も多く検出されています。（平成25年12月5日現在）

[（インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所））](#)

### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

#### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち 欠席者数		施設数合計		休園・ 休校数		学年閉鎖 施設数		学級閉鎖 施設数		初発 年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
<b>岡山県全体</b>	<b>0</b>	<b>45</b>	<b>0</b>	<b>23</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	-	-	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>H25. 11. 13</b>
岡山市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
倉敷市	0	44	0	22	0	2	-	-	-	-	0	2	H25. 11. 18
備前地域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
備中地域	0	1	0	1	0	1	-	-	0	1	-	-	H25. 11. 13
備北地域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
真庭地域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美作地域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

#### 2) 臨時休業施設数の内訳

第48週：0施設

累計：3施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	-	-	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	-	-	-	-	-	-

### <インフルエンザの予防接種はお早めに！>

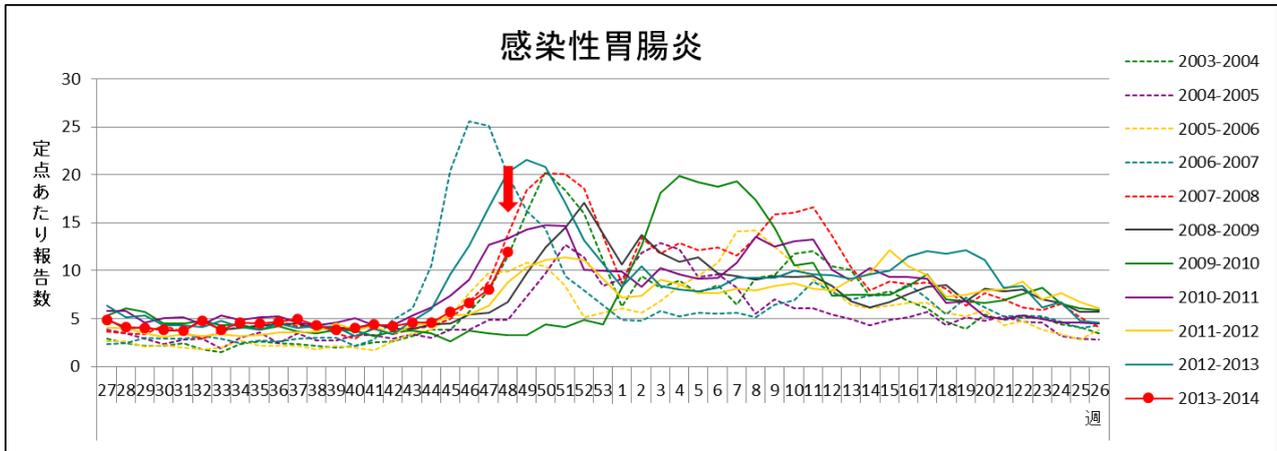
インフルエンザの予防接種を行っても、抗体ができるまでには2週間程度かかるとされています。本格的な流行が始まる前に、早めのワクチン接種をご検討ください。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

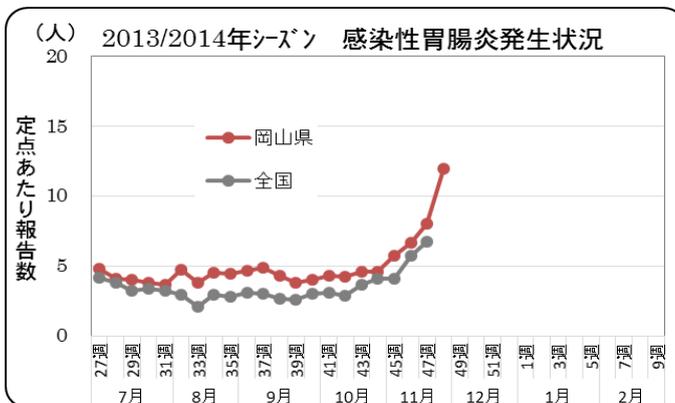
ワクチンの在庫及び、予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

## 感染性胃腸炎情報 2013 年 第 48 週 (11 月 25 日 ~ 12 月 1 日)

- 感染性胃腸炎は、県全体で 647 名（定点あたり 8.07 → 11.98 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。
- 11 月 25 日、岡山市の小学校で、今シーズン初となる感染性胃腸炎による臨時休業がありました。



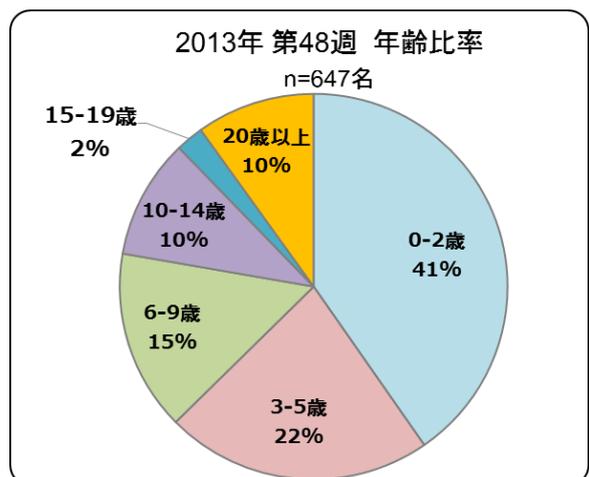
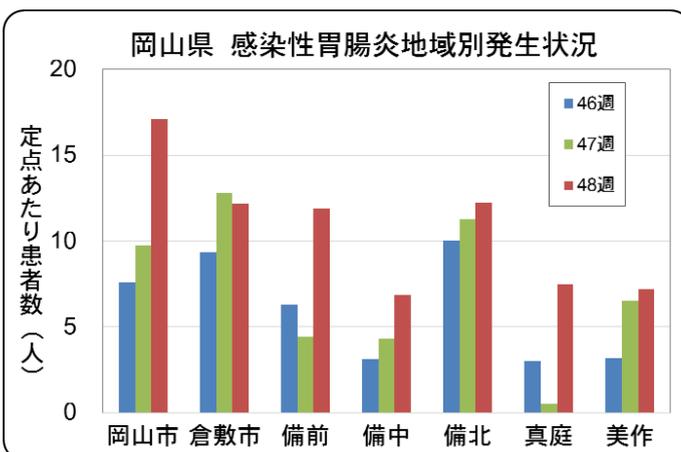
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。



感染性胃腸炎は、県全体で 647 名（定点あたり 8.07 → 11.98 人）の発生があり、前週より大きく増加しました。

11 月 25 日には、岡山市の小学校 1 校（2 クラス）で、今シーズン初となる感染性胃腸炎による学級閉鎖の報告がありました。冬の感染性胃腸炎の原因はウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは感染が拡大することがありますので、手洗いの徹底や下痢便・吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

### ◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、岡山市（9.71 → 17.07 人）、備北地域（11.25 → 12.25 人）、倉敷市（12.82 → 12.18 人）の順で定点あたり患者数が多くなっており、岡山市、備前地域（4.40 → 11.90 人）、真庭地域（0.50 → 7.50 人）で大きく増加しました。

年齢別では、0～2 歳が全体の 41%と、多くを占めています。

## 【感染性胃腸炎とは】

感染性胃腸炎は、主にウイルスや細菌を原因とする胃腸炎の総称で、冬に流行する代表的な感染症です。1年を通じて発生が報告されますが、患者発生ピークとなる12月にはノロウイルスが原因となることが多く、その後の春のピークはロタウイルス、夏期には腸炎ビブリオなどの細菌が原因となると考えられています。

[○感染性胃腸炎とは（国立感染症研究所）](#)

[○IDWR2012年第48号<注目すべき感染症>感染性胃腸炎](#)

## <冬期に多いウイルス性胃腸炎について>

### 【症状】

1～2日の潜伏期の後、嘔吐、下痢、腹痛、発熱が見られます。ノロウイルスを原因とする場合、症状は1～2日と短期間ですが、ロタウイルスを原因とする場合は5～6日つづくことがあります。

### 【感染経路】

ウイルスが人の手などを介して、口に入ったときに感染する可能性があります。

1. 感染した人の便や吐物に触れた手指を介してウイルスが口に入った場合
2. 便や吐物が乾燥して、細かな塵と舞い上がり、その塵と一緒にウイルスを吸い込んだ場合
3. 感染した人が十分に手を洗わずに調理した食品を食べた場合
4. 汚染されていた二枚貝を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合

特にノロウイルスは、100個以下の少ない量でも感染が成立する、非常に感染力が強いウイルスです。

### 【治療】

ウイルスを原因とする感染性胃腸炎への特別な治療法はなく、対症療法が中心です。通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

### 【予防】

1. **最も大切なことは手を洗うことです。**特に、排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
2. 嘔吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、**処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。**使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、嘔吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、塩素系漂白剤で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。
3. 嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、85℃で1分間以上の熱水洗濯が適しています。熱水洗濯が行える洗濯機がない場合は、**次亜塩素酸ナトリウム※の消毒が有効です。**  
※塩素系の漂白剤（使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。）
4. 嘔吐物は思った以上に遠くまで飛び散ります。ウイルスが残らないように、塩素系消毒剤で広い範囲を確実に消毒しましょう。ノロウイルスにアルコールは消毒効果が低いとされています。
5. 食品は中心部まで十分に加熱しましょう。



[○ノロウイルスに関するQ&Aについて（厚生労働省）](#)

[○ノロウイルス感染症とその対応・予防（家庭等一般の方々へ）（国立感染症研究所）](#)

保健所別報告患者数 2013年 48週 (2013/11/25～2013/12/01)

2013年12月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	41	0.49	3	0.14	10	0.63	-	-	8	0.67	19	3.17	-	-	1	0.10
RSウイルス感染症	64	1.19	25	1.79	11	1.00	1	0.10	1	0.14	2	0.50	2	1.00	22	3.67
咽頭結膜熱	10	0.19	2	0.14	3	0.27	-	-	2	0.29	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	71	1.31	40	2.86	13	1.18	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	16	2.67
感染性胃腸炎	647	11.98	239	17.07	134	12.18	119	11.90	48	6.86	49	12.25	15	7.50	43	7.17
水痘	54	1.00	27	1.93	13	1.18	7	0.70	2	0.29	1	0.25	3	1.50	1	0.17
手足口病	7	0.13	1	0.07	1	0.09	1	0.10	4	0.57	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	2	0.04	-	-	-	-	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	30	0.56	15	1.07	6	0.55	4	0.40	2	0.29	3	0.75	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	5	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 48週 (2013/11/25～2013/12/01)

2013年12月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	41	0.49	3	0.14	10	0.63	-	-	8	0.67	19	3.17	-	-	1	0.10
咽頭結膜熱	10	0.19	2	0.14	3	0.27	-	-	2	0.29	-	-	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	71	1.31	40	2.86	13	1.18	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	16	2.67
感染性胃腸炎	647	11.98	239	17.07	134	12.18	119	11.90	48	6.86	49	12.25	15	7.50	43	7.17
水痘	54	1.00	27	1.93	13	1.18	7	0.70	2	0.29	1	0.25	3	1.50	1	0.17
手足口病	7	0.13	1	0.07	1	0.09	1	0.10	4	0.57	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	2	0.04	-	-	-	-	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	0.06	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	5	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2013年 第48週 2013/11/25~2013/12/01 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	41	-	-	2	1	1	4	1	5	1	-	2	1	9	6	2	3	2	1	-

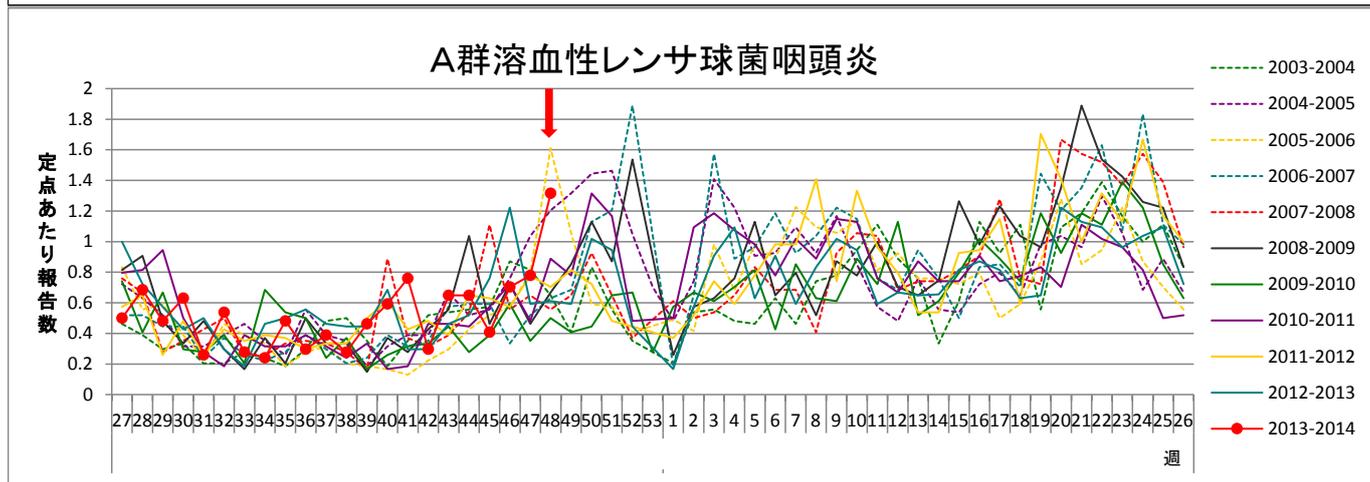
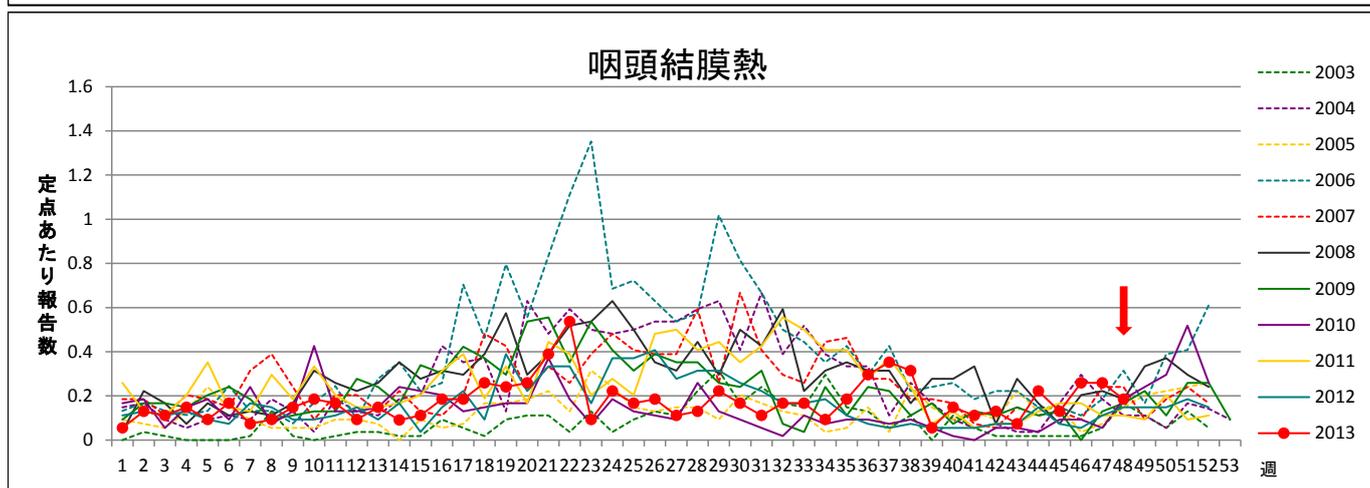
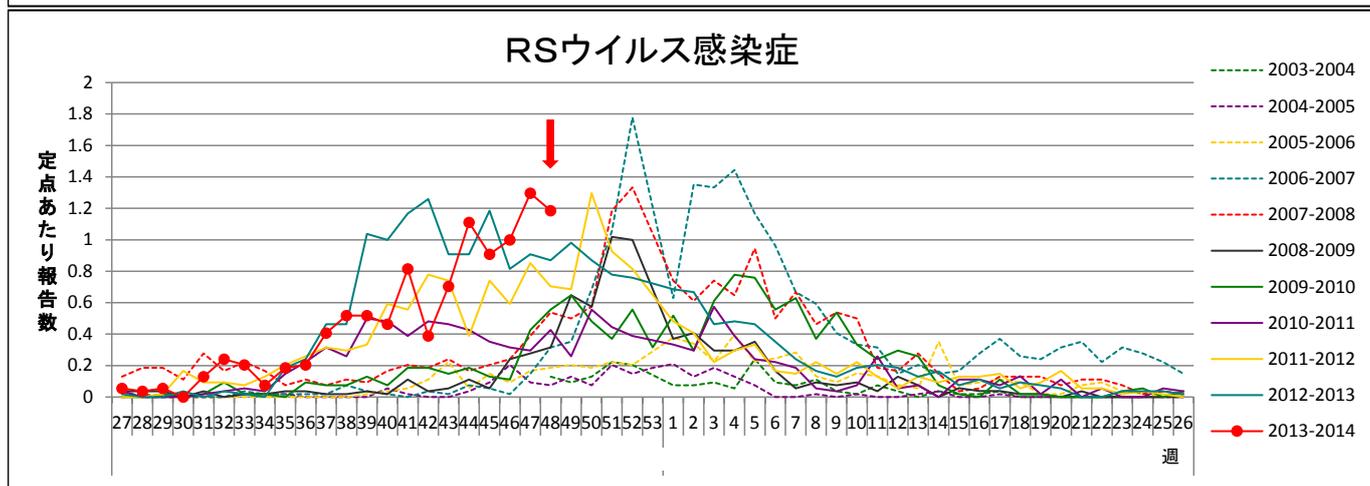
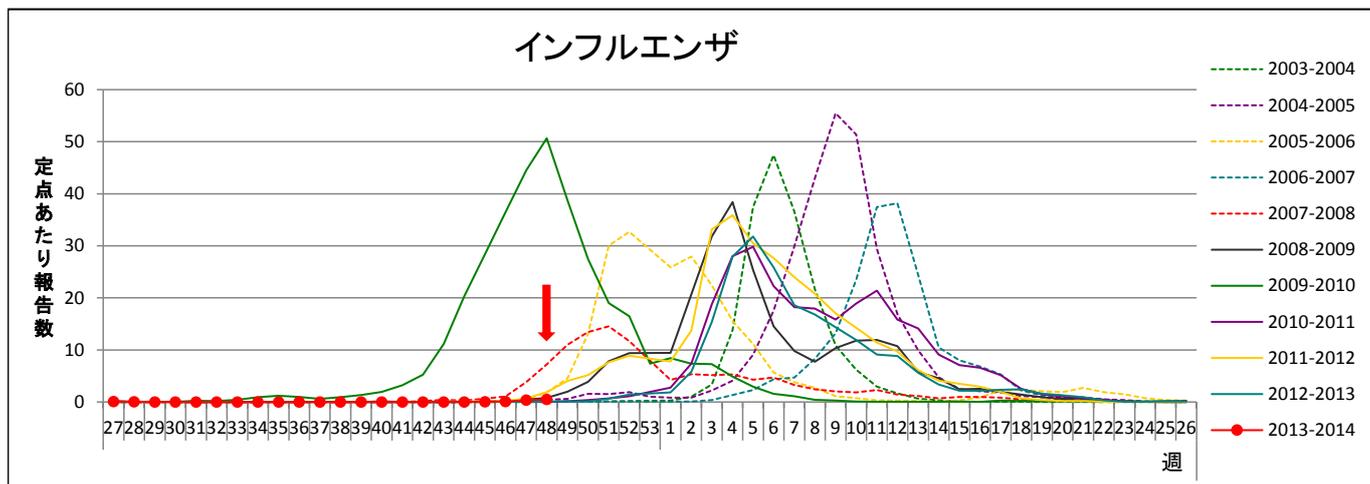
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	64	7	17	23	9	7	-	1	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	10	-	1	5	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	71	-	-	4	8	9	5	11	5	4	3	13	1	8	
感染性胃腸炎	647	5	32	157	67	56	50	38	37	25	21	15	65	15	64
水痘	54	-	2	8	13	7	9	3	7	2	-	1	2	-	
手足口病	7	-	-	1	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	30	-	17	11	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	2	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	

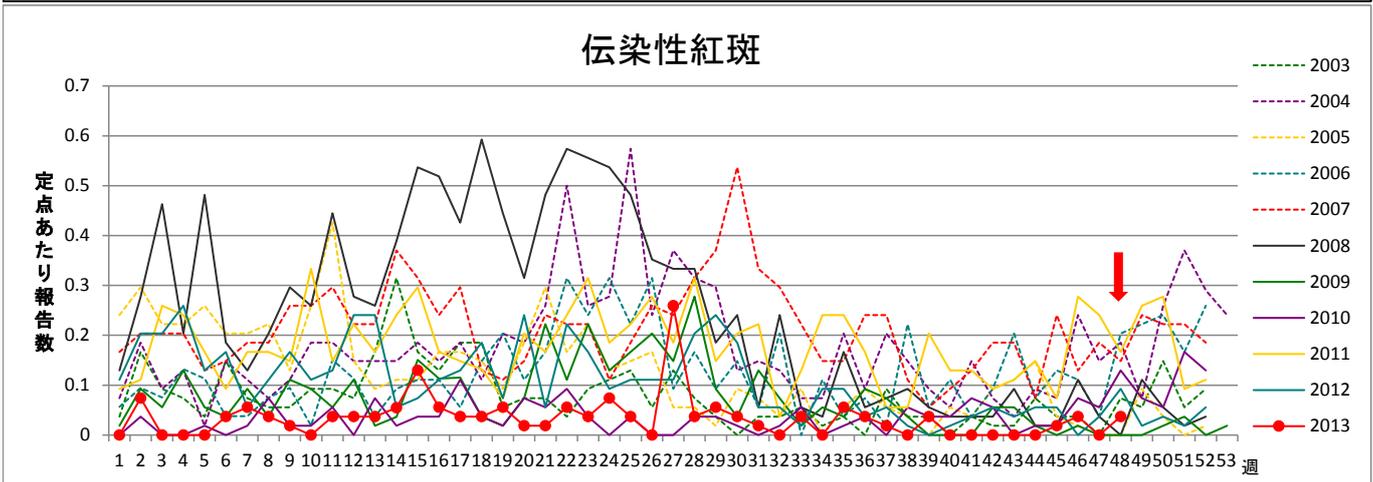
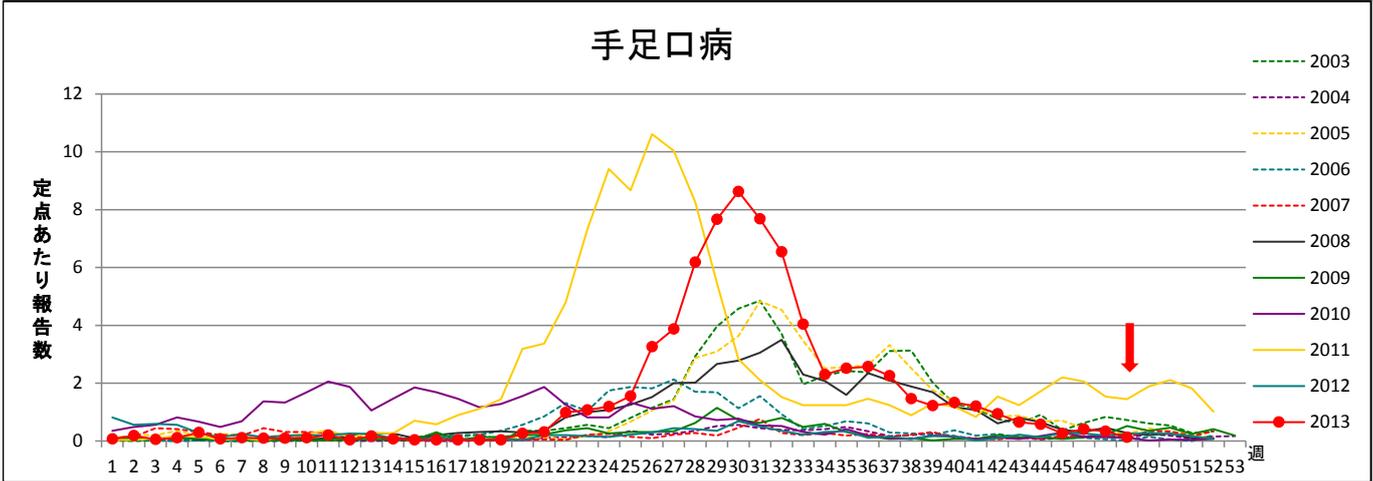
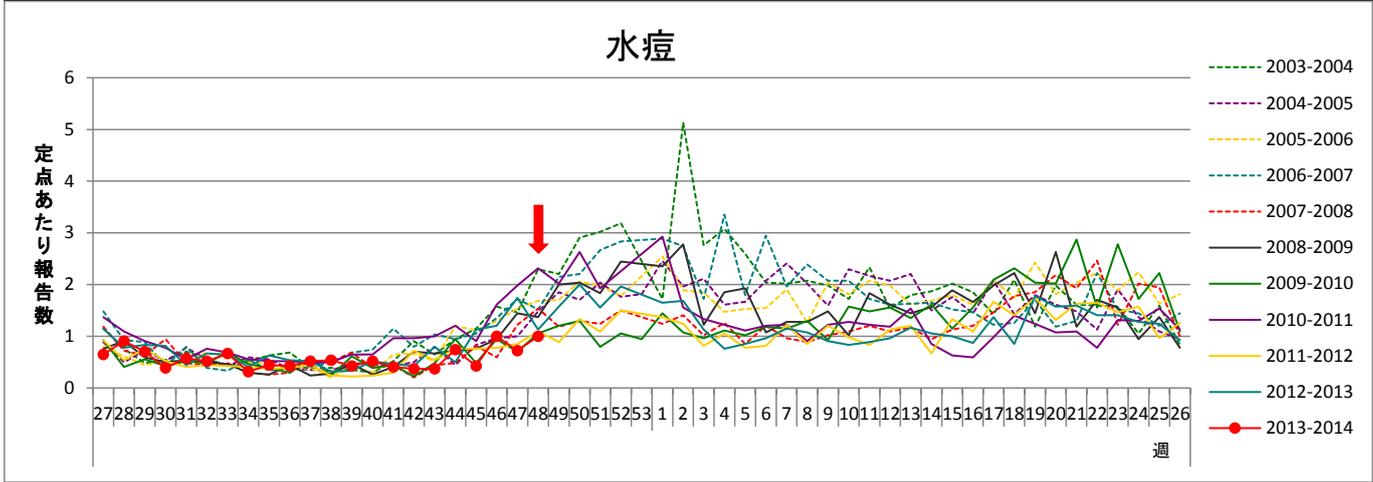
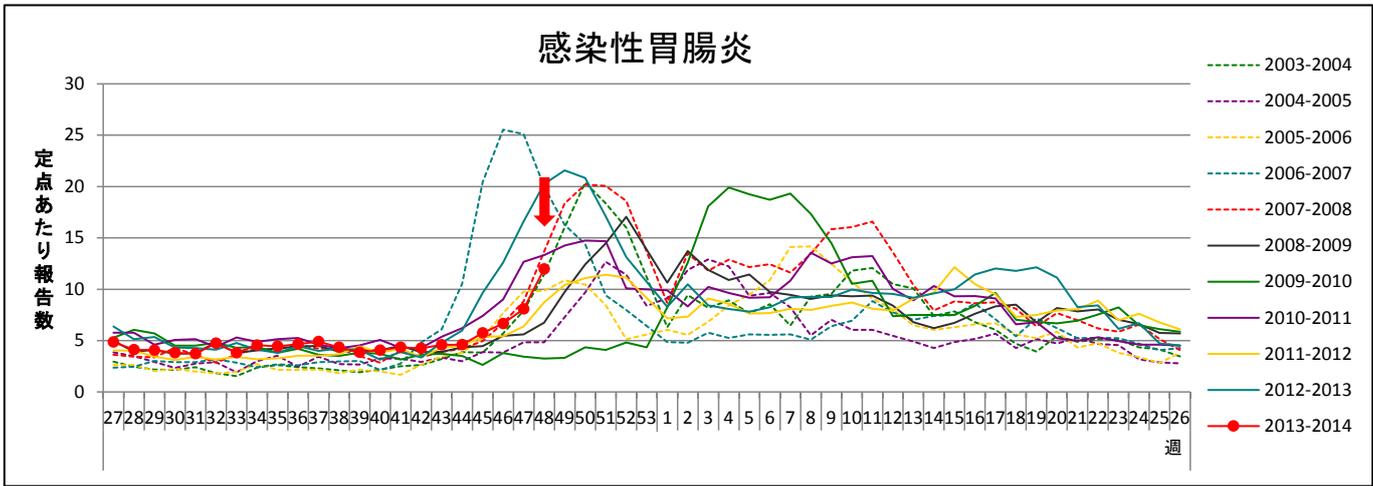
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

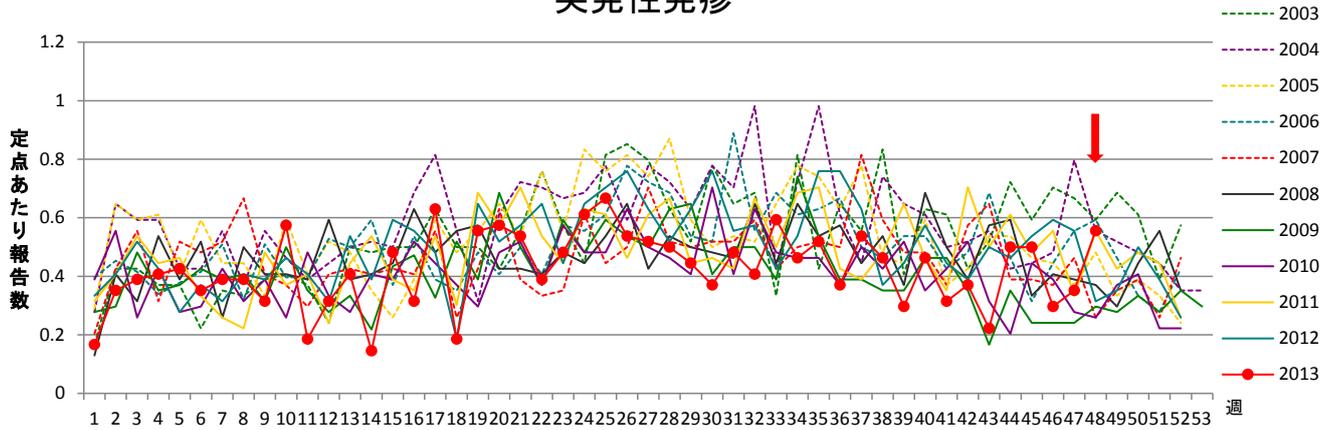
( - : 0 )



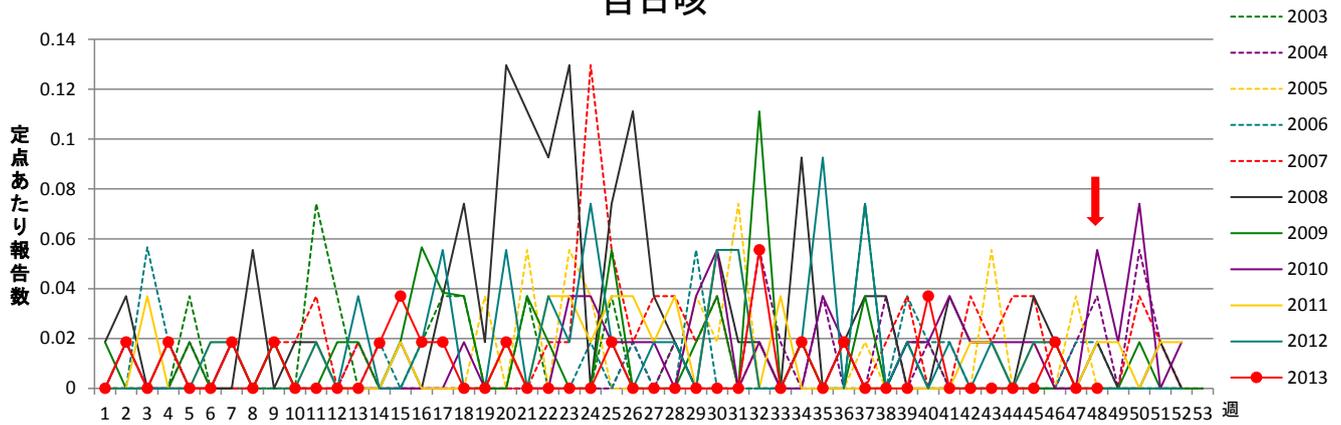




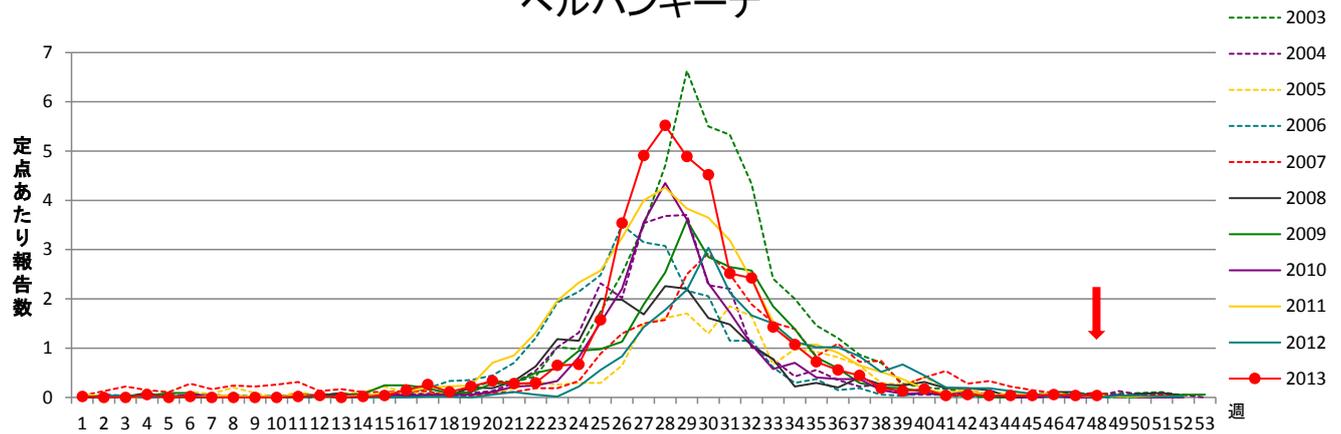
### 突発性発疹



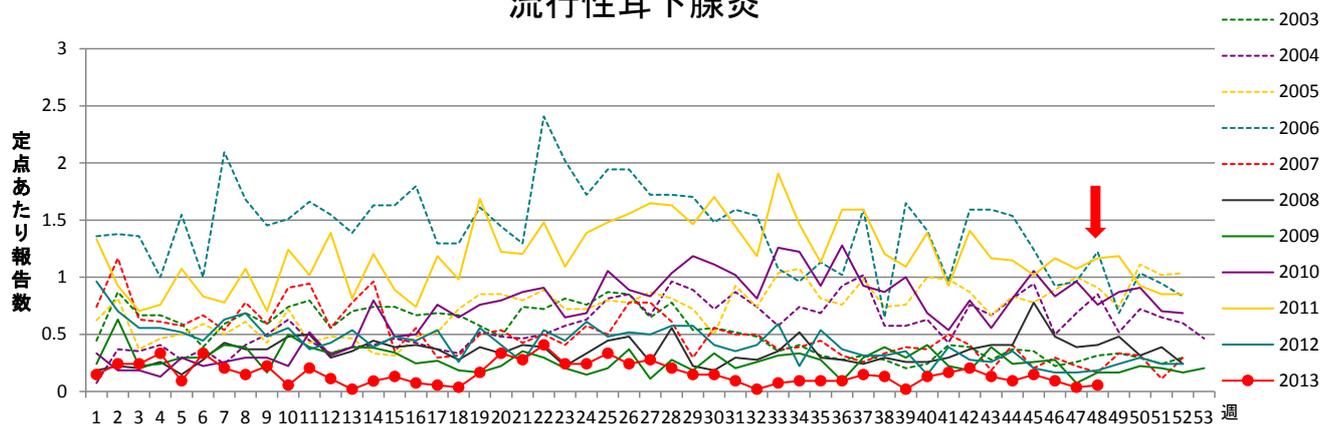
### 百日咳



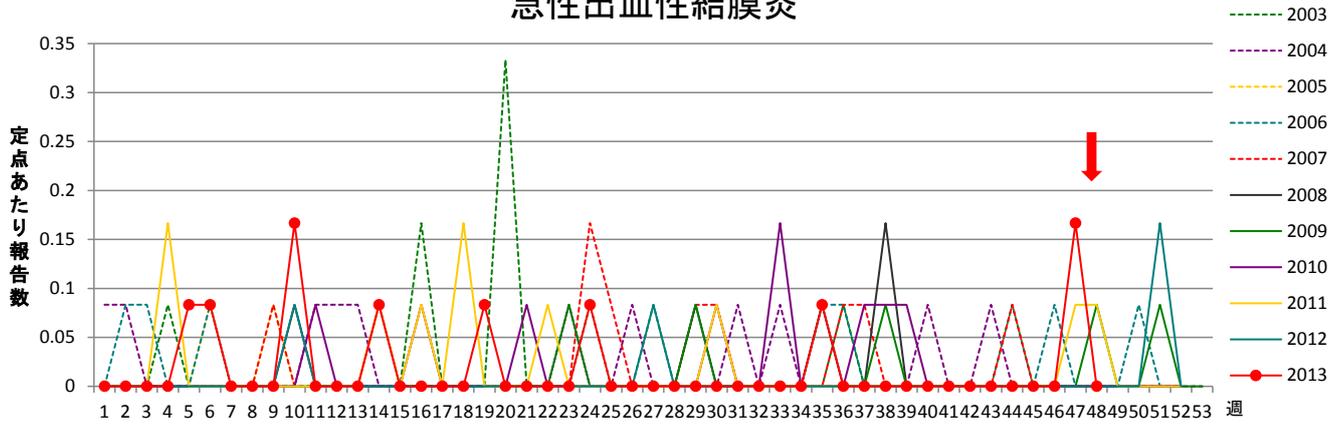
### ヘルパンギーナ



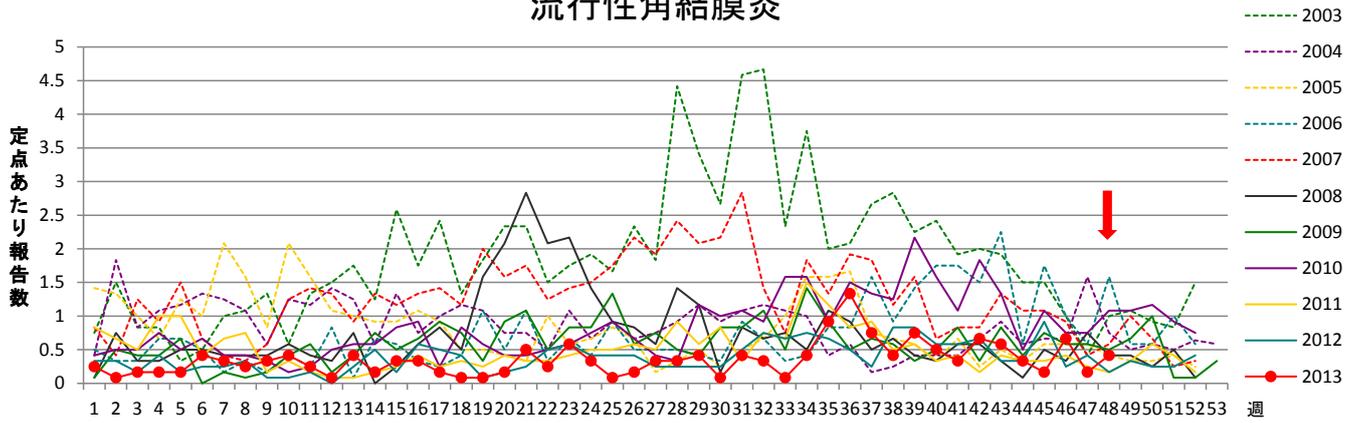
### 流行性耳下腺炎



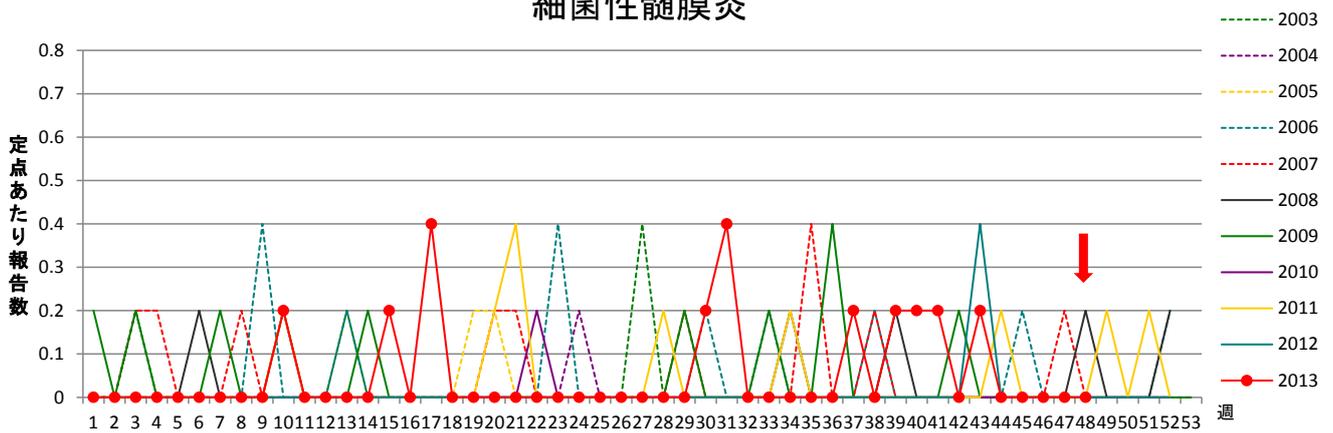
### 急性出血性結膜炎



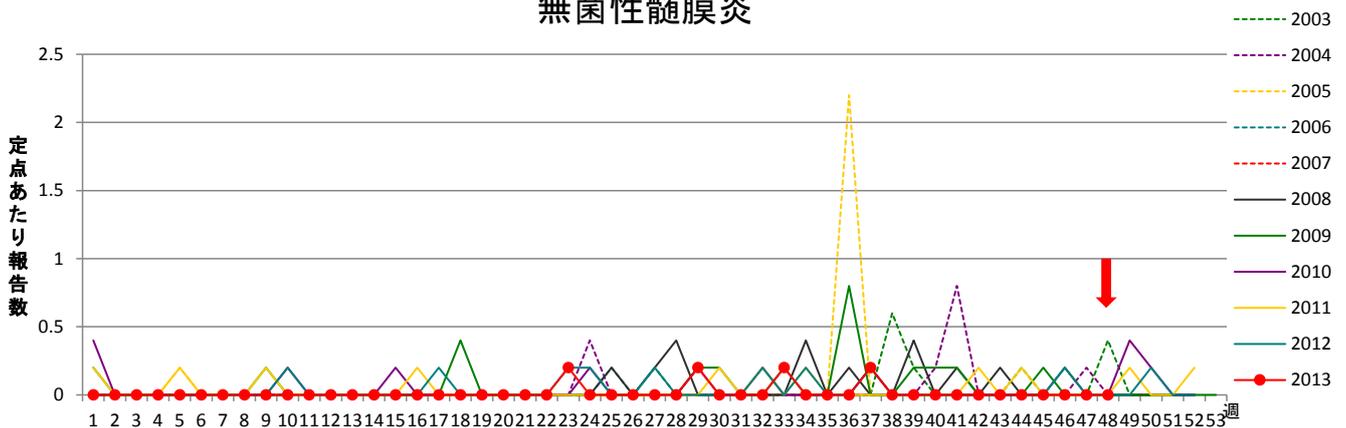
### 流行性角結膜炎



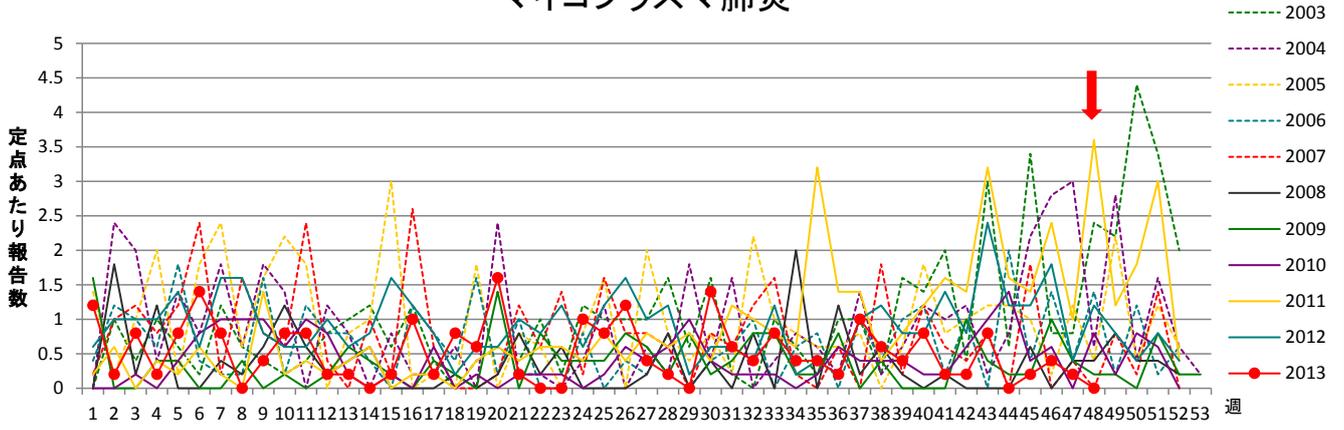
### 細菌性髄膜炎



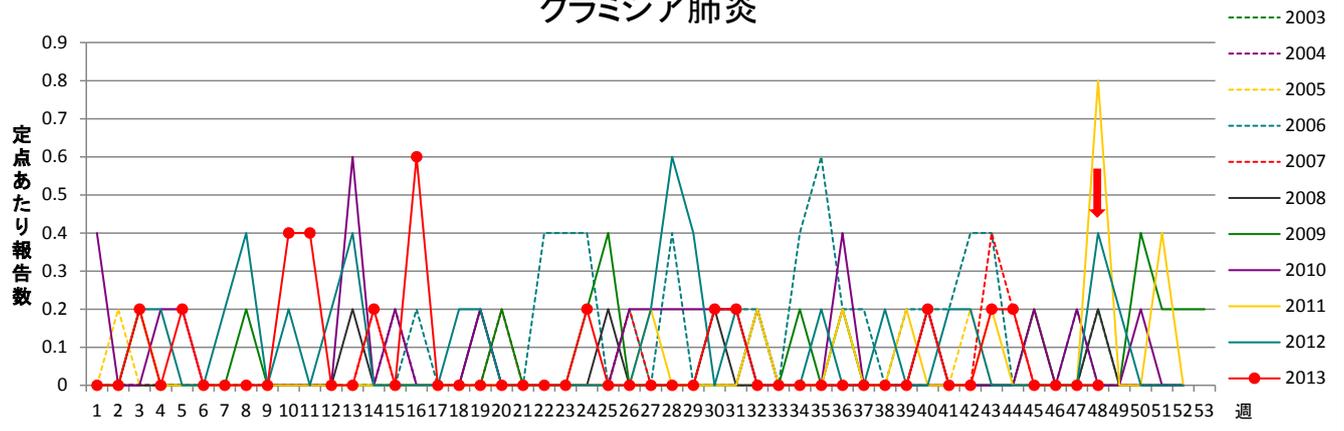
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

